



日本出版クラブ
会 報

三つの目的と

私見若干

会長 下 中 弥 三 郎

この度、思いがけなくも会長に選ばれましたが、実は、最初の仲裁役が会長になるということは、まことに不本意なことです。しかし出版クラブの出版に当って、年寄が会長になった方がいだろう、という皆さんのたつての御指名があることで、また永井茂弥さんや尾張真之介さんがこれらについては存分に意見副会長として会の事務に携つて下さるというので、大変ふつつかでございすけれどもお引受けいたしました次第です。いうまでもなく、日本出版クラブは、第一に会館の管理運営、第二に会員の親睦、第三に出版界ぜんたいの繁栄に三つにまわつていきたいと思います。役立つ、という三つの目的をもつたのですが、財産として文化アベート、引きつがれた現金若干、これは右の三つの基本的目的のために利用せらるべきものと考えます。



ホテル国際観光における懇親会風景

昭和二十九年十月二十八日

からでもあります。しかし、これにつきましても、いろいろと御意見を言っていたとき、それにもとづいて、最もよいと思われる線を出していただきたいと考えておりますことは申し上げるまでもありません。出版界には御承知のように現在いろいろの団体があり、それぞれの性格、趣意にそつた活動をされておりますが、それらをもつと総合的に考えた案を出版クラブとしては考へてはどうかという問題もあります。

つまり、出版界全体の問題として考えねばならぬ問題について大局に立つて勘案処理してゆけるような機能を考へてはどうかという意見もございます。例えば、クラブの中に各種の委員会をつくる必要な活動をしてゆく案、雑誌・書籍・教科書の委員会をつくる案、それぞれの業界繁栄の策を講じる一方、ほかに、運賃問題、小売問題や不況救済の問題の如きは臨時にそれに応ずる委員会を考へて、そのつど解決するようにしては、というような意見も寄せられております。要するに、日本出版クラブの根本的な性格としては、繰り返すようではありますが、出版界の親睦機関であることを念頭に入れ、その親睦的な協力から、現在出版界が直面している諸問題を、次第に解決してゆきたい、というのが私共出版界に席をおきますものの、ひとしく念願するところだろうと存じます。第一に会館の管理運営、第二に会員の親睦、第三に出版界ぜんたいの繁栄、と申し上げましたが、この目的達成のために、皆さんと共に今後の困難を乗り切つていきたいと考えております。何分にも日本出版クラブは未だ設立少々であり、総てはこれからであります。健康に成長することを願つて止みません。次に、この機会に、日ごろ考へております私見を、二三申し上げてみたいと思ひます。まず第一には、やがて来るであろう国際時代に対処し、日本も出版の国際的な協力関係を、もつと強力に打ち立てなくちやならぬ、という問題があります。これは外国書を出版するにしても、翻訳料を払つた上に一割五分という印税を払つては、算盤がとれないから、出来れば両方あわせて一割五分というようになれば、いいのじやないかと考へています。また、ラジオやスライドが進出して参りました今日、それらの方面に対応する考へも立てていかなければならぬのではないかと。おそらく、マイクロカード、あるいはマイクフィルムというようなものが、将来出版界の一つの副事業的な仕事として、生れてくるのではないかと思つています。また、出版事業というものが、紙というものに依存しているような点がありますが、できれば出版界自身で出版用紙の会社をもつところまで行かなくちやならないとも考へています。そうならば、どうしても出版金庫の問題があります。それも大きな金のやりくりばかりでなく、小資本の出版が企画さえよければ、やれるように考へられないかと思ひます。これらのことは、単に個人的な考へにすぎませんが、今後皆さんにも充分御考慮願ひまして、漸次そういう方向へ動いていつて頂きたいと思ひます。以上をもちまして私の就任の御挨拶いたします。